2024年10月3日　中日新聞

「災害への備え 外国人も同じ　碧南、ベトナム人対象の防災研修」

災害への備え 外国人も同じ

碧南、ベトナム人対象の防災研修

防災用のリュックに入れる物をカードで選別する参加者ら

負傷者役を毛布で運ぶベトナム人ら＝いずれも碧南市平山町で

備蓄や負傷者搬送方法学ぶ

碧南市平山町の集合住宅「ビレッジハウス西端」で9月29日、南海トラフ地震を想定し、入居者のベトナム人を対象とした防災研修があった。33人が参加し、慣れない地震への対応を学んだ。（西山和宏）

管理会社のビレッジハウス・マネジメント（東京）が開催。ビレッジハウス西端では、5階建ての4棟で143戸が貸し出されており、住人の6割をベトナム人が占める。

県防災士会の大塚正寿さん(64)＝名古屋市＝ら2人が講師を務め、南海トラフ地震の概要、頭蓋骨のある頭部より被害の大きい首を手で守るといった揺れへの対処、避難で隣人と助け合う重要性を説明。何を防災用リュックに入れておくかをテーマにワークショップも行い、簡易トイレ、日頃服用する薬などを挙げた。

また、ヘルメットを着用して搬送訓練も実施。横たわった負傷者役を毛布に載せ、両端を丸めて6人で安全に運ぶ方法を実際に試した。大塚さんは「外国人だからと特別なことはなく、日本人と同じ心構えで備えるよう説明した」と話した。

ベトナムではマグニチュード(M)6前後の地震が50年に1度発生する程度で、日本より頻度は少ないとされる。2年前に来日した契約社員グエン・キュウ・チャンさん(30)は「水と食料は備蓄しているが、さらに備蓄が必要な物が分かった。備えはしっかり整えたい」と表情を引き締めた。

ビレッジハウス・マネジメントは、全国でベトナム人入居者を対象とした防災イベントを実施しており、豊田市などに続き4カ所目。「南海トラフ地震の津波災害警戒区域に指定されている碧南を選んだ」という同社の平田陽一事業戦略本部長(47)は「防災、減災の意識を外国人にも共有してもらうきっかけになれば」と手応えを語った。

碧南市の外国人人口は8月末時点で6474人で、国籍別ではブラジル人2783人、ベトナム人1600人、フィリピン人653人の順。2016年と比べて全体で1・9倍に増加し、中でもベトナム人は6倍強と急増している。